

年間指導計画 3年

月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
学習編				
4月 5月	1. 目的に応じて効果的に書こう 文字を効果的に使うために (教科書 P50-51) ◎身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。[知技(3)エ(ア), (1)ア, A(1)オ(2)イ]	知識 2	1 教科書に掲載された誌面を見て、ゴシック体・明朝体・手書き文字の特徴と、それぞれの文字から受ける印象をまとめ、話し合う。 2 活字にもさまざまな書体があることを理解する。 3 「学習の窓」を見て、ゴシック体・明朝体・手書き文字の特徴と、それを使うことによる効果を確かめる。 【学習活動の応用例】 ○ 新聞や雑誌などを見て、目的に合わせた文字の選択とその効果を確かめ、発表し合う。 ○ 教科書 P70-73 「情報を発信する」などを参考に、目的に応じて文字を効果的に書き分け、新聞やリーフレットを作成する。	【知】 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書いている。 【思】 (文字の特徴と使用効果の関係について考えるなかで、目的に応じて効果的に文字を書く必要があることを確かめている。) 【態】 積極的に(①)明朝体・ゴシック体・手書き文字の特徴と、それを使うことによる効果を理解し(③)、学習課題に沿って(②)それぞれの文字の特徴や効果について話し合おうとしている(④)。
6月 7月	【コラム】デザインと文字 (教科書 P52-53) ◎目的に応じて、効果的に文字を書くことの意義を理解することができる。[知技(3)エ(ア)]	知識 2	1 「デザインと文字」を読んで、デザイナーが文字を選ぶときの基準や、文字に対する考え方を理解する。 2 さまざまな文字を使ってデザインされた装丁を比較し、その文字を使うことによる効果や受ける印象について話し合う。 3 「広告と文字」を見て、身の回りにおける文字文化に関心をもつとともに、伝えようとする内容や目的と、その文字を使ったことによる効果を話し合う。 【学習活動の応用例】 ○ 自分が選んだ本を持ち寄り、表紙や本文の効果的な文字の使い方について、確かめたことを発表し合う。 ○ 教科書 P74-75 「読書環境を豊かにする」などを参考に、目的に応じて文字を効果的に書き分け、本の帯やポップを作る。	【知】 目的に応じて、効果的に文字を書くことの意義を理解している。 【思】 (文字を効果的に使った装丁や広告を見て、多様な表現があることを確かめている。) 【態】 積極的に(①)効果的に文字を書く意義を理解し(③)、学習の見通しをもって(②)文字による多様な表現について話し合おうとしている(④)。
9月 10月	2. 学習したことを生かして書こう 三年間のまとめ (教科書 P54-55) ◎今までに学習した知識・技能を生かして書くことができる。[知技(3)エ(ア), (1)ア]	知識 2	1 「学習の窓」を一覧し、3年間で学習したことを振り返る。 2 設問①～⑥に取り組む。 3 それぞれの設問と関連のあるページを「学習の窓」一覧から探し、自分の回答を見直す。 4 教科書 P56 の欄外を見て回答を確かめ、点画の省略や筆順の変化など、設問に関連のある知識を確認し、定着させる。	【知】 今までに学習した知識・技能を生かして書いている。 【思】 (設問に取り組むなかで、3年間で学習した知識・技能の生かし方を考えている。) 【態】 積極的に(①)3年間で習得した知識・技能を振り返り(③)、これまでの学習を生かして(②)設問に取り組もうとしている(④)。
11月 12月	未来に向かって (教科書 P56-57) ◎今までに学習した知識・技能を生かして書くことができる。[知技(3)エ(ア), (1)ア, B(1)ア・ウ・オ]	硬・毛 2	【学習活動例①】 1 これまでに学習したことを生かして、毛筆で「輝ける未来へ」を書く。 2 台紙に貼り付けて卒業記念作品として掲示し、感想を交流する。 【学習活動例②】 1 写真や記録を持ち寄り、これまでに学習したことを生かして、「自分史」や中学校3年間の歩みを振り返る冊子を作成する。 2 卒業記念作品として掲示したり、「話すこと・聞くこと」と連携して発表会を開いたりする。	【知】 今までに学習した知識・技能を生かして書いている。 【思】 (卒業を記念する作品を作るなかで、3年間で学習した知識・技能の生かし方を考えている。) 【態】 積極的に(①)3年間で習得した知識・技能を振り返り(③)、これまでの学習を生かして(②)卒業を記念する作品を作っている(④)。

月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
1月 2月 3月	<p>【発展】先人の文字に学ぶ (教科書 P58)</p> <p>◎高等学校では芸術としての「書道」を学ぶことを知り、学習への関心を高めることができる。[知技(3)エ(ア)]</p>	知識 1	<p>1 「蘭亭序」「高野切第三種」を鑑賞し、これまでに学習してきた漢字や仮名が、先人の優れた筆跡を基礎として発展してきたものであることを理解する。</p> <p>2 さまざまな書き手による「道」「風」を鑑賞し、同じ書体であっても書き手によってさまざまな個性が見られることを理解する。</p> <p>【学習活動の応用例】</p> <p>○「恵風」「ひと」「道」「風」から書きたいものを選び、臨書(古典に倣って書くこと)に挑戦する。</p>	<p>【知】高等学校では芸術としての「書道」を学ぶことを理解している。</p> <p>【思】(「蘭亭序」「高野切第三種」の鑑賞を通して、これまでに学習した書き方との共通点や相異点について考えている。)</p> <p>【態】積極的に(①)先人の筆跡に関心をもち(③)、学習の見通しをもって(②)現在の文字とのつながりを見つけようとしている(④)。</p>
	<p>【コラム】手書きの力 (教科書 P119)</p> <p>◎手書き文字のよさについて考えることができる。[知技(3)エ(ア)]</p>	知識 1	<p>1 谷川俊太郎の筆跡を鑑賞し、手書き文字に対する思いを読んで、そのよさについて話し合う。</p> <p>【学習活動の応用例】</p> <p>○巻頭の詩「文字と出会う」に立ち戻り、手書き文字のよさを再認識するとともに、これからも文字との出会いを大切にしていこうという意欲を高める。</p>	<p>【知】手書き文字のよさについて考えている。</p> <p>【態】進んで(①)手書き文字のよさについて考え(③)、学習の課題に沿って(②)理解したことや感じたことを交流しようとしている(④)。</p>